

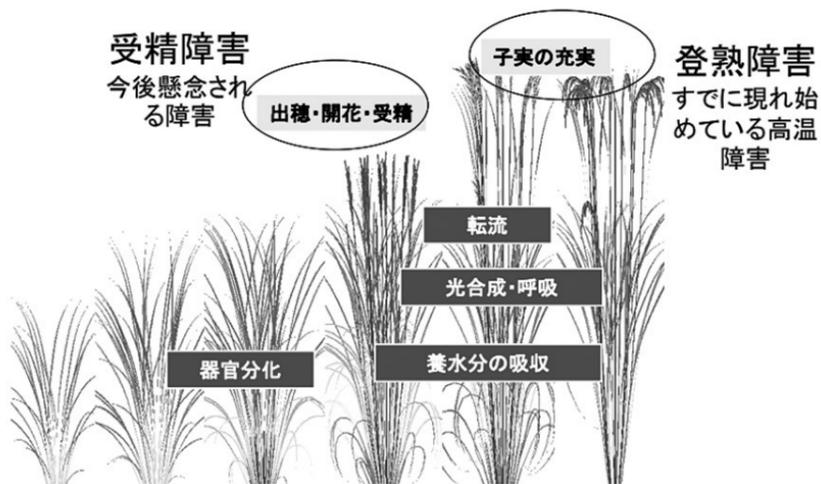
# 宮農だより

金沢営農協議会  
J A 金沢中央  
石川県農業共済組合

## 高温障害注意!

近年、夏場の異常高温による米の収量・品質の低下が懸念されています。  
一昨年は、この異常高温の影響により全国各地で1等米比率が著しく低下しました。今夏も高温が続くと予想されておりますので、しっかり対策を行いましょ。

### 異常高温の水稲への影響



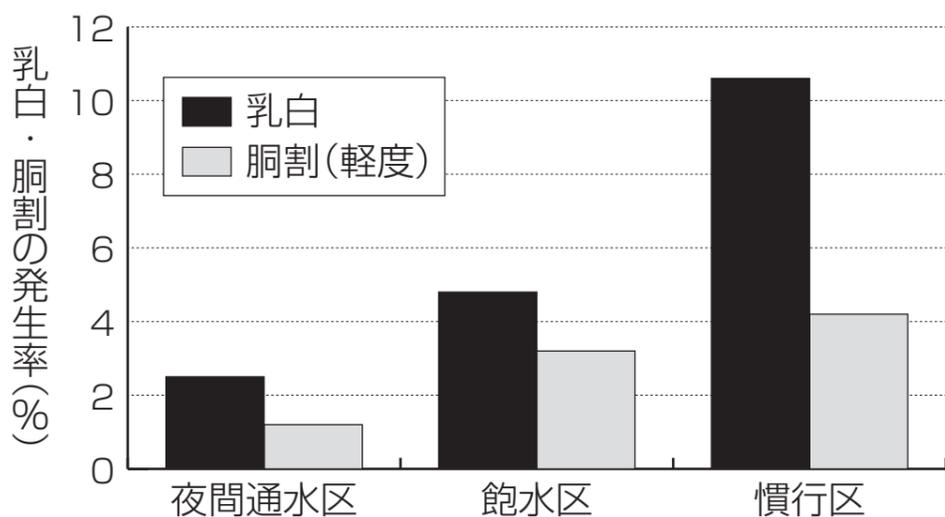
### 水稲うるち玄米等級検査結果(北陸)

年産	1等	2等	3等	規格外
6年産	82.5%	14.7%	1.5%	1.3%
5年産	37.9%	36.7%	23.0%	2.4%
4年産	79.3%	18.4%	0.9%	1.4%
3年産	84.5%	13.5%	0.8%	1.1%
2年産	79.4%	18.2%	1.3%	1.1%

### ●登熟期における品質向上のための水管理

- ①2～3日おきの間断通水が基本ですが、高温等の稲体が消耗する気象条件下では**毎日でも通水を実施しましょう。**フェーン現象が予想される場合は、あらかじめ通水し土壌水分を保持しましょう。
- ②高温となる日中の湛水を避け根の健全化に努めましょう。**通水は夜間通水が効果的です。**
- ③刈取直前まで飽水管理を継続しましょう。

### 出穂後の水管理が品質に及ぼす影響(石川農研)

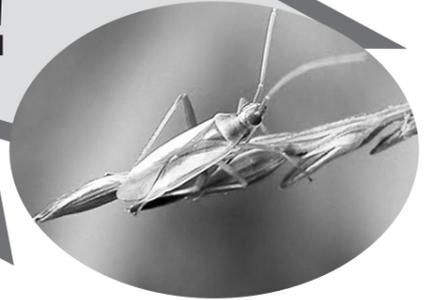
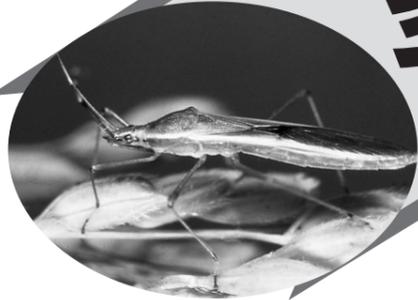


高温年においては5日間隔の間断通水を行う慣行区に比べて、**夜間通水により乳白粒や胴割粒の発生が抑えられる。**  
夜間通水を行えない場合でも、**通水間隔を短くして土壌を常に飽水状態に維持すると、慣行区に比べて乳白粒や胴割粒の発生を抑えることができる。**

### 【早すぎる落水は、米の収量・品質を低下させます】

- 落水の時期が早すぎると、稲の根の機能を早く弱め、稲全体の活力を急激に落とします。その結果、デンプンを作って穂に送る葉の働きが弱まり、**籾の肥大を途中で止めてしまい収量が低下、また、胴割粒の発生により品質低下を招きます。**
- 水分不足で稲体の機能が低下すると、下葉の枯れ上がりが多くなり、着色粒の発生や各種の病害に対する抵抗力も弱くなります。

# 斑点米カメムシ類の 多発注意報発令中!



7月15日～22日に本田の生育調査を行った結果、平年の約1.2倍にも及ぶカメムシの発生が確認されました。中でも、トゲシラホシカメムシやホソハリカメムシの発生が目立ちました。



実物大

トゲシラホシカメムシ

## トゲシラホシカメムシ

歩行性カメムシで、体色は淡褐色で黒点特徴。8月上旬に稲穂に集まって加害する。



実物大

ホソハリカメムシ

## ホソハリカメムシ

大型の飛翔性カメムシで、体は茶色。生育期間が長いため、晩植栽培や晩生品種が集中加害を受けやすい。

カメムシの被害により、**落等**の他、**色彩選別機での歩留低下による減収**が予想されますので、下記の対策を実施してください。

### ① 防除剤の「2回」散布を徹底!

→ 効果的な時期は【出穂後7～10日後】と【1回目防除の7日後】  
詳細は、営農だより第5号をご確認ください。

### ② 本田除草を徹底!

**斑点米の発生減に向け、地域一体となって取り組みましょう!!**

## 熱中症に気を付けて!!

こんな症状が出たら熱中症のサインかも…



めまい



手足がつる



吐き気

早い対処は快復への近道、**異変を感じたらすぐに対処しましょう。**